



Relief

[リリーフ]

CONTENTS

- 2024年度 小・中学生「いのち」の作文コンクール表彰式
- 2025年度 公募助成先決定
- 2025年度 AED訓練器等助成先決定

2025
MAY
Vol. 50



2024年度「小・中学生『いのち』の作文コンクール」表彰式を開催

将来を担う子どもたちに、作文を書くことを通じて「いのち」の大切さを考えていただくとともに、優秀な作品を広く周知し、「いのち」を大切にできる安全で安心できる社会づくりにつなげることを目的として、近畿2府4県の小・中学生を対象に開催している「いのち」の作文コンクール。6回目となる今回は4,541名の方からご応募いただきました。

今回は、大切な人やペットなどのいのちに関する作品が多いことに加え、日々の何気ない会話を通じて感じた生きることの楽しさなどに触れた作品も増え、小・中学生の皆さまが感じる様々ないのちに出会うことができました。

選考の結果、「いのちの作文大賞」4名、「優秀賞・選考委員特別賞」6名、「優秀賞」20名、「入選」70名が決定しました。



「いのちの作文大賞」受賞者と選考委員のみなさん(左から4番目から 津村 記久子 委員、重松 清 委員、菊池 省三 委員)

表彰式の様子



重松 清 選考委員による講評

2025年1月26日(日)、新大阪ワシントンホテルプラザにて開催しました。当日は、「いのちの作文大賞」、「優秀賞・選考委員特別賞」、「優秀賞」の受賞者とそのご家族や学校関係者、約110名の皆様にご参加いただき、各賞を受賞された30名の方に、当財団来島理事長から、表彰状が授与されました。

選考委員を代表し、重松清委員から、一生懸命いのちについて考え、作文を書いたことへの感謝の意が述べられ、受賞した30名一人ひとりへ心のこもったメッセージが伝えられました。続いて総評として、みなさんが作文を書いた時間自体がかけがえのないものであり、現在の学年で作文に書いて考えたことが、未来の自分自身の糧になってくれると信じていること、「いのち」への感じ方は年齢によっても変わるので、ぜひ数年後、さらには大人になっても何度でも作文を読み返し、自分の作品と長く付き合ってもらいたいことが述べられました。

また、式中、教育実践研究家の菊池省三選考委員、作家の津村記久子選考委員からも、それぞれの立場から参加した受賞者に対して、労いと今後へのエールの言葉が贈られました。



菊池 省三 委員



津村 記久子 委員

詳しくはJR西日本あんしん社会財団のホームページをご覧ください

<https://www.jrw-relief-f.or.jp/seminar/sakubun2024/>



表彰式当日、「いのちの作文大賞」を受賞したみなさまからのコメントと受賞作文を紹介させていただきます。



小学1・2年生部門

野洲市立野洲小学校
2年

上田 麻祐子さん

<受賞コメント>

すばらしい賞をいただけ良かったです。

「いろいろないのち」 上田 麻祐子

夏休みになって、家族と近くのお祭りへ行っただが、弟は金魚すくいをした。一匹もすくえなかったが、店のおじさんが一匹きずつくれた。家に帰り、お父さんにバケツと水を用意してもらった。弟はお父さんに、「明日、いっしょにブクブクを買に行こう。」と約束していた。でも、次の朝、起きてバケツをのぞきこむと、弟の金魚は固くなってういていた。弟は、すごく泣いていた。でも私は弟の金魚だったので、あまり悲しくなかった。むしろ、私の金魚が生きていてよかったと思った。それより、死んだ金魚がこわかったので、弟に「早くほかして」と言った。弟はさらに泣いた。それから三日ほどたって、私の金魚もフラフラと泳ぐようになってエサも食べなくなった。もうすぐ、この金魚も死ぬのかと思うと急に悲しくなった。次の日、私の金魚も死んだ。やっと弟の気持ちがわかった。

その日の夜、お父さんがかいてるずしずしにつれていってくれた。どのおすしもおいしかったが、サーモンが一番おいしかった。でも、サーモンをとりすぎて残してしまった。お母さんに、「サーモンも金魚と同じで生きていたんだよ。」と言われ、わすれていた金魚のことを思い出した。少しいやな気持ちになった。金魚もサーモンと同じ魚なのに、死んだとき、あまり悲しくないとあれば、すごく悲しいときもあるし、何も思わないときもある。同じいのちなのに、なぜかわからない。ただ、私が残したサーモンも家族がいて、悲しんでくれるだけかっていたのかなと思うと、何だか悪いことをした気持ちになった。いのちがなくなるときのかんじ方は、いろいろだからこそ、どのいのちも大じにしないといけないなと思った。

でも、やっぱりサーモンが好き。これからは、食べられる分だけお皿をとろうと思う。



小学3・4年生部門

大阪市立春日小学校
4年

森 治己さん

<受賞コメント>

飼育が難しいオナガミズアオが羽化したときの感動を作文にしました。大好きな昆虫の作文で賞をいただけてとてもうれしいです。

「オナガミズアオ飼育記」 森 治己

ぼくのしゅみは昆虫の採集、飼育、標本作りです。6月のある日、昆虫採集に山の湿原に行ったとき体長5mmほどのオナガミズアオの幼虫を見つけた。オナガミズアオは前翅長12cmにもなる大きな蛾で、その翅は美しい水色をしています。ぼくは飼育しようと思い、何匹か持ち帰りました。

幼虫が食べる植物は湿原などにしか生えないハンノキの葉でぼくの住む地いには生えていません。幼虫はとても大食漢です。たくさん食べると、すぐに体長5cmほどになりました。ぼくは毎回採集に行ったとき、えさとなるハンノキを持ち帰っていました。

ある日、学校から帰り水そうをのぞくとハンノキがなくなっていました。幼虫はもぞもぞと動き回りえさを探しています。すぐに食べさせないと死んでしまうかもしれません。ぼくはお母さんにたのんで車でつかまえた山につれていってもらいました。幼虫3匹もいっしょです。その車はまるできゆう急車のような山につくと、いそいでハンノキをケースに入れました。幼虫たちは元気にもぐもぐ食べ始めたのでぼくはほっとしました。

それからしばらくして2匹がまゆになりました。のこりの1匹はまだ小さくえさを食べ続けていました。まゆになるまであともう少しのところで、保ごんしていたハンノキが全てなくなってしまいました。その日から岡山県に昆虫採集に行くことになってしまったため、また幼虫もいっしょに車でつれていくことになりました。どこかにハンノキがないか探している、ようやくオナガミズアオの食草であるヤシヤブシを見つけました。食べてくれるか心配でしたが、次の朝ケースを見ると、まゆになっていました。

8月に入ったある日、水そうをのぞくと水色の大きな蛾が出てきました。とてもきれいなオスでした。それから数日後、のこりの2匹も羽化しました。オスとメスでした。成虫は口がなく、えさを食べることはできません。あれだけえさをとるのに苦ろうしたのに成虫になるとえさを食べず、1週間ほどで死んでしまうのです。ぼくは生き物たちが子そんをのこし、命をつなぐために生まれてきたのだなと深く感じました。

オナガミズアオは死んでしまいましたが、水そうの中には、たまごがありました。ぶじ生まれるかはわかりませんが、生まれたらまたハンノキをとりたいたいと思います。

2025年度公募助成（活動及び研究）の助成先が決定

この度も熱意溢れる多くのご応募をいただき、活動助成26件、今回から新たに設定した、令和6年能登半島地震に伴う活動助成（特別枠）9件、研究助成9件 計44件の助成が決定しましたので、以下のとおり採択されました団体や研究者の皆様をご紹介します。

当財団も団体や研究者の方々への支援を通じて、より一層、安全で安心できる社会の実現へ向けて少しでも貢献していくことを目指しています。

【活動助成】事故、災害や不測の事態に対する備えに関する活動、発生後の心身のケアに関する活動

テーマ	団体名（50音順）
ペット防災セミナーの開催と避難訓練の実施	あいすのぼう®
若者による若者のための防災コミュニティづくり	一般社団法人 imargin
正しく知れば怖くない食物アレルギー	一般社団法人 LFA Japan
救命率向上のためのバイスタンダーサポート活動の強化（継続）	NPO法人 AQUAkids safety project
障害児者および要配慮者と家族および地域への防災ワークブック配布事業	NPO法人 輪母ネットワーク
災害リハビリテーション支援の普及と支援者レベルアップ研修会開催および支援者の指導者育成の取り組み	大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会
遺族会及び講演会・研修会の実施	けいな 虹の会
ブラインド型緊急対応訓練の普及活動	五位堂地区活性化倶楽部
防災を生活の中に落とし込み自分事と捉える ～災害時にも役立つ学びを～	こどもの笑顔を守る会～この指とまれ～
災害防止啓発・啓蒙活動	サウンド・バーサーカー
ペリネイタル・ロス後の深い悲しみの現状、支援の必要性や在り方を社会に伝える	周産期グリーンケアはちどりプロジェクト
地域ごとに災害リスクの視点から、防災活動を更に一歩前に進めよう！	宝塚市自治会ネットワーク会議
福祉とペット活動	WPPグループ（Japan Pet Press）
聴覚障害者への防災啓発活動	チーム防災
被災地支援におけるアレルギー配慮の実態調査を子ども食堂を活用して地域防災に活かす！	月ノヒカリ
小1（幼児期）親子の安心・安全を支える事業	特定非営利活動法人 キャップセンター・ジャパン
マンションの防災・避難行動を楽しく学べる 子ども向け学習教材の開発と学習支援活動	特定非営利活動法人 集合住宅維持管理機構
子供向け防災・救急救命講習	特定非営利活動法人 Go-Kuma-Kids
WEB データベースを利用した災害鍼灸マッサージ活動の調整および訓練のための事業	特定非営利活動法人 鍼灸地域支援ネット
高齢者が運転能力評価結果で返納日を宣言し、返納日までに生活不便要因解消支援活動	特定非営利活動法人 全日本企業福祉協会
「家族を守る！あとまわしにしない防災準備」講座・交流会	特定非営利活動法人 Happiness Kids Labo
グリーンケア公開講座開催及びグリーンケア提供者向け研修実施	はすの会 東大阪・神戸
誰かをケアする人がケアされる会	ひらけ！互磨

[26件]

【活動助成（特別枠）令和6年能登半島地震に伴う被災地・被災者支援活動

テーマ	団体名（50音順）
能登地震と豪雨災害で被災した写真を手洗いしてお返しする写真洗浄活動	あらいぐま大阪
能登を笑顔満開に！！	Aloha nui loa ※
北陸地方への災害アレルギー対応啓発事業	一般社団法人 LFA Japan
能登半島沖地震における障がいのある方への避難支援及び避難システムの検討	環境リハビリテーション科学研究会
被災地へ届ける愛と回復の音楽活動	特定非営利活動法人 ジェイズ・マス・クワイア
能登半島地震被災地の情報ギャップの解消を通じた支援活動及び実証的研究	奈良県立大学 村瀬研究室
能登半島地震で被災し石川県野々市市に広域避難している方への交流支援事業	にじいろエイド ※
能登半島地震・豪雨の被災地における心のケア活動	被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」
被災者に寄り添った能登復興支援活動	ふっこうのおと ※

※「Aloha nui loa」「にじいろエイド」は石川県、「ふっこうのおと」は富山県からの応募

[9件]

【研究助成】事故、災害や不測の事態に対する備えや防止に関する研究、発生後の心身のケアに関する研究

テーマ	研究者名（50音順・敬称略）
災害時や有事の際にスムーズに移動可能な車椅子の開発	大阪産業大学 工学部 交通機械工学科 特任講師 浅田 晴香
列車乗降時における隙間転落の危険性についての「共有された情報」が保護者と子どもの態度や行動にもたらす効果の検証	大阪公立大学 大学院文学研究科 准教授 橋本 博文
幼稚園送迎バス安全性向上のための具体的運用に関する調査研究	桃山学院教育大学 教授 / 教職センター長 村上 佳司
農山村地区における災害知を活用した防災・減災モデルの構築に関する研究	京都大学大学院 地球環境学 准教授 落合 知帆
災害時における福祉施設入所者の避難支援のための鉄道活用に関する研究	兵庫県災害医療センター 副部長 島津 和久
自助力・互助力が支える災害レジリエンスの高いコミュニティへの転換に関する研究	大阪大学大学院 教授 白石 三恵
防災から復興の連続性に注目した住民自治に基づくコミュニティ形成の方法論に関する実証的研究	関西福祉科学大学 社会福祉学部 福祉創造学科講師 竹内 友章
防災意識向上を目的とした歴史資料を通じた地震被害の理解に関する研究	四天王寺大学 講師 辰巳 俊輔
登下校見守り活動ボランティアのレリバンスと見守りシステムの開発に関する研究	奈良学園大学 教授・学生支援センター長 松井 典夫

※ご応募いただいた時点での所属機関名を記載しております。

[9件]

2025年度AED訓練器等助成事業の 助成先が決定

当財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向け、2015年度より、救命処置の普及啓発活動に積極的に取り組む団体を応援するため、公募によるAEDトレーナーや訓練用人形を提供するAED訓練器等助成事業を実施しています。2025年度は救命処置の普及活動に対し意欲溢れる団体から13件の応募をいただき、以下のとおり6団体に提供しました。

団体名 [6団体] (50音順)

大阪市立墨江丘中学校 (大阪府大阪市住吉区)

大阪市住吉区にある同校の生徒保健委員を中心とした生徒、教職員、保護者や近隣の小中学校の生徒等を対象に救命講習会を実施する等の活動を行っている。
※2016年度に続き2回目の助成

河合町消防団女性分団 (奈良県北葛城郡)

奈良県北葛城郡の町内の自治会やこども園保育教諭、小中学生等の地域住民を対象に救命講習会を実施する等の活動を行っている。

京都橘大学 救急救命研究部 TURF (京都府京都市山科区)

京都市山科区にある同大学内の学生、地域の自治会や自主防災会等の地域住民を対象に救命講習会を実施する等の活動を行っている。
※2015年度に続き2回目の助成

五位堂地区活性化倶楽部 (奈良県香芝市)

奈良県香芝市にあるAED設置施設を中心にマンション住民、学校や老人福祉施設等の地域住民を対象に救命講習会を実施する等の活動を行っている。
※2023年度に続き2回目の助成

特定非営利活動法人 日本救命防災普及協会 (兵庫県尼崎市)

大阪市内の区民センターや高等学校の生徒、地域イベント参加者等の地域住民を対象に救命講習会の実施やAED体験ブースを出展する等の活動を行っている。

一般社団法人 BYSTANDER (大阪府豊中市)

近畿圏を中心に小中学校の生徒や地域住民を対象に救命講習会を実施する等の活動を行っている。SNSを活用し、随時参加者を募集。



アンケート実施中

毎号、皆様からご好評いただいておりますReliefにつきまして、いつもご感想をお聞かせくださり、ありがとうございます!今号についてのご意見やご感想もお待ちしております。

(<https://www.jrw-relief-f.or.jp/enquete/>)



編集後記

広報誌制作担当のEです。
今号では「いのち」の作文コンクールの表彰式、2025年度の公募助成、AED訓練器等助成事業の助成先の決定のお知らせをお届けしました。
今回は8ページといつもよりボリュームを落としての発行になりましたが、これからも読者の皆様に楽しみに待っていただけるよう努力してまいります。

広報誌「Relief」 2025年5月号(vol.50)

[表紙写真:2024年度 小・中高生「いのち」の作文コンクール表彰式の様子]
Relief(リリーフ)には「ほっとする、安堵。安心」といった意味があります。

JR西日本あんしん社会財団は、福知山線列車事故の反省の上に立ち、設立されました。
「安全で安心できる社会」の実現に少しでもお役に立てるよう、事故や災害等で被害に遭われた方々の心身のケアに関わる事業や、地域社会の安全構築に関わる事業などに取り組んでいます。

編集発行/公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪府北区芝田二丁目4番24号 ホームページ:<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>



ホームページ



Facebook

